

ひとつのランプから始まる未来

玉津第一小学校 五年 天羽 悠月

「えっ、っ。」

私はそこに置いてあるモノに、目を疑った。  
大英博物館展の100のモノが語る世界の歴史  
その100番目の品が、ソーラーランプとけいぞう  
電話の充電器だった。

「どうしてこのようなモノが、世界の歴史を  
語れるのだらう。」今の日本では、どこで  
も買えるものなのに、何を伝えようとしてい  
るのだ。

説明書に顔を近づける。それらは近年の科  
学とテクノロジーの粋が結集されて作られ、  
太陽光に8時間さらすと、ランプは100時間点  
灯すると記されている。そして、「このソー  
ラーランプは、電気の通らない所に住む最  
貧国の人々のために作られました。その数、  
12億人。」

知らなかった。このキットを必要としてい  
る人達が世界にはこんなたくさんいるんだ。

下には二人のうれしそうな笑顔の男の子が、  
 一つのラニプで本を読んでいる写真があった。  
 そのラニプは、この家のただ一つの灯りなの  
 かもしれない。私はこの時、今まで見てきた  
 100のものの中で、一番心がゆれ動いた。身近  
 に使っている電気のありがたさを感じた。

100の物語の最後。それは、いろいろな人の  
 思いと技術が結集されたもの。これらで、今  
 ままで電気が通っていないなか、た地域の生活が向  
 上していくだけでなく、私と同じ子供達が共

に勉強し、やがて世界のどこかで出会えるか  
 もしれない。そして環境にもやさしいこのキ  
 ャトは、将来のエネルギー問題を解決してい  
 くための技術発展へとつながっていくだろう。

物語には101番目がある。大英博物館館長か  
 らのメッセージ。200万年前からの世界の歴史  
 をたどる旅。いつの時代も人の思いは同じで  
 ある。だから人類はひとつの家族なのだとい  
 う。私はその101番目をこれから探していく。大  
 切な家族と笑顔が生まれることを願って。